

Smart Wellness City,
Smart Welcoming City

基本計画

基本目標②

未来



第2章 | 子どもが輝く 「未来のまち やわた」

I 第1節 子育て支援

- **めざす姿** 妊娠・出産から子育てまで、地域で一貫したサポートが受けられることで、安心して前向きに子育てができる人が増えています。

施策体系と主な取組

① 妊娠・出産・育児サポート

- 妊娠・出産・子育て環境の整備と充実
- 子ども・妊産婦の保健体制の充実
- 相談・支援体制の充実
- ひとり親家庭支援の充実

② 就学前教育・保育の充実

- 就学前教育・保育の充実
- 公立就学前施設の再編

I 第2節 子どもの生きる力の育成

- **めざす姿** 次代を担う子どもたちの「生きる力」が備わっています。

施策体系と主な取組

① 学校教育

- 学校教育の充実
- 学校教育環境の整備
- 配慮が必要な子どもへの支援体制の整備

② 児童・青少年の健全育成

- 放課後における児童の健全育成
- 青少年の健全育成

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
ファミリーサポートセンター*登録会員数	345人	415人	460人
3歳児健康診査受診率	91.5%	92.0%	93.0%
こんにちは赤ちゃん訪問事業*の訪問率	91.0%	92.0%	95.0%
保育園の待機児童数	0人(H29.4.1)	0人	0人
認定こども園の数	3園	6園	10園

指標名		現状	目標値	
			2022年	2027年
全国学力・学習状況調査結果 ^(※) (小学校6年生)	国語A	94.9	100	105
	国語B	90.4	100	105
	算数A	96.7	100	105
	算数B	93.7	100	105
全国学力・学習状況調査結果 ^(※) (中学校3年生)	国語A	96.9	100	105
	国語B	95.6	100	105
	数学A	99.1	100	105
	数学B	95.6	100	105
市内不登校児童生徒出現率	小学生	0.8%	0.6%	0.4%
	中学生	5.0%	3.9%	2.8%

※調査結果の全国平均を100とした場合の八幡市の状況。

放課後子ども総合プラン*実施箇所数	0箇所	4箇所	8箇所
-------------------	-----	-----	-----

第2章 | 子どもが輝く 「未来のまち やわた」

Ⅰ 第1節 子育て支援

めざす姿

妊娠・出産から子育てまで、地域で一貫したサポートが受けられることで、安心して前向きに子育てができる人が増えています。

施策体系

子育て支援

- ①妊娠・出産・育児サポート
- ②就学前教育・保育の充実

施策の背景

女性の社会進出の拡大に伴い、子育てをする親のライフスタイルが大きく変化してきている中、核家族化の進行などにより、子育てについて身近に相談できる人が少なく、不安や戸惑いを感じる人も少なくありません。

本市においても子どもの数が減少傾向にある中、子育てに対する不安を和らげ、前向きに子どもを産み育てることができるようにしていくためには、妊娠・出産から育児まで一貫したサポートが受けられるよう、相談体制、ひとり親家庭支援の充実など子育て支援の充実を図っていく必要があります。

また、少子化や地縁関係の希薄化などを背景に、地域で仲間を見つけることが難しくなっているほか、乳児期から長時間保育を受ける子どもが増加するなど、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。そのため、これまで家庭で培ってきた基本的な生活習慣も保育園等で身につけることが増えてきているなど、就学前施設の重要性がますます高まっており、就学前における教育・保育の一層の充実を図ることが求められています。

1 妊娠・出産・育児サポート

現状と課題

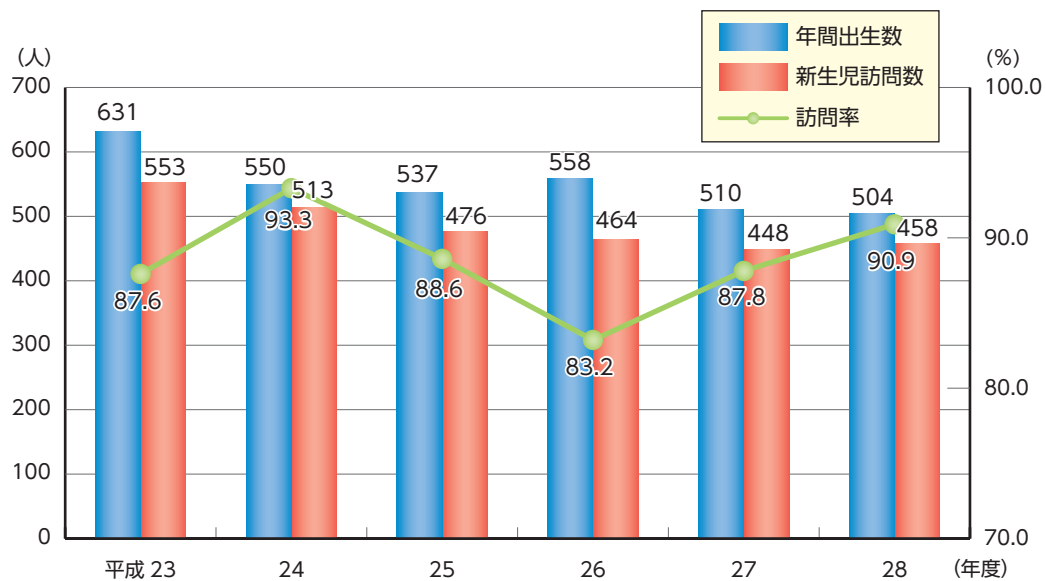
近年、年間出生数が減少傾向にある中、市では、子育て支援の充実を図る取組として、「こんにちは赤ちゃん訪問事業*」を実施し、乳児のいる家庭に対し9割の訪問率を確保しています。また、市内3箇所に設置している子ども・子育て支援センターにおいては、各種子育て支援事業を展開し、多くの子育て世帯に利用されています。今後も、乳児への訪問率のさらなる向上や、地域ニーズを踏まえたセンターでの取組の充実に努める必要があります。

子どもの健康診査受診率については、高い水準で推移していますが、子どもの年齢が大きくなるほど低下しています。健康診査は、発達が気になる子どもへの早期支援等にもつながるため、受診に向けた啓発等を図っていく必要があります。

このほか、社会的な関心の高まりもあり、児童虐待に関する通告件数の増加がみられることや、ひとり親世帯が以前に比べて増加しているという状況もあります。家族の形態やライフスタイルも多様化しており、貧困や家庭問題、疾病など様々な事情を抱える家庭への支援体制の充実が必要になっています。

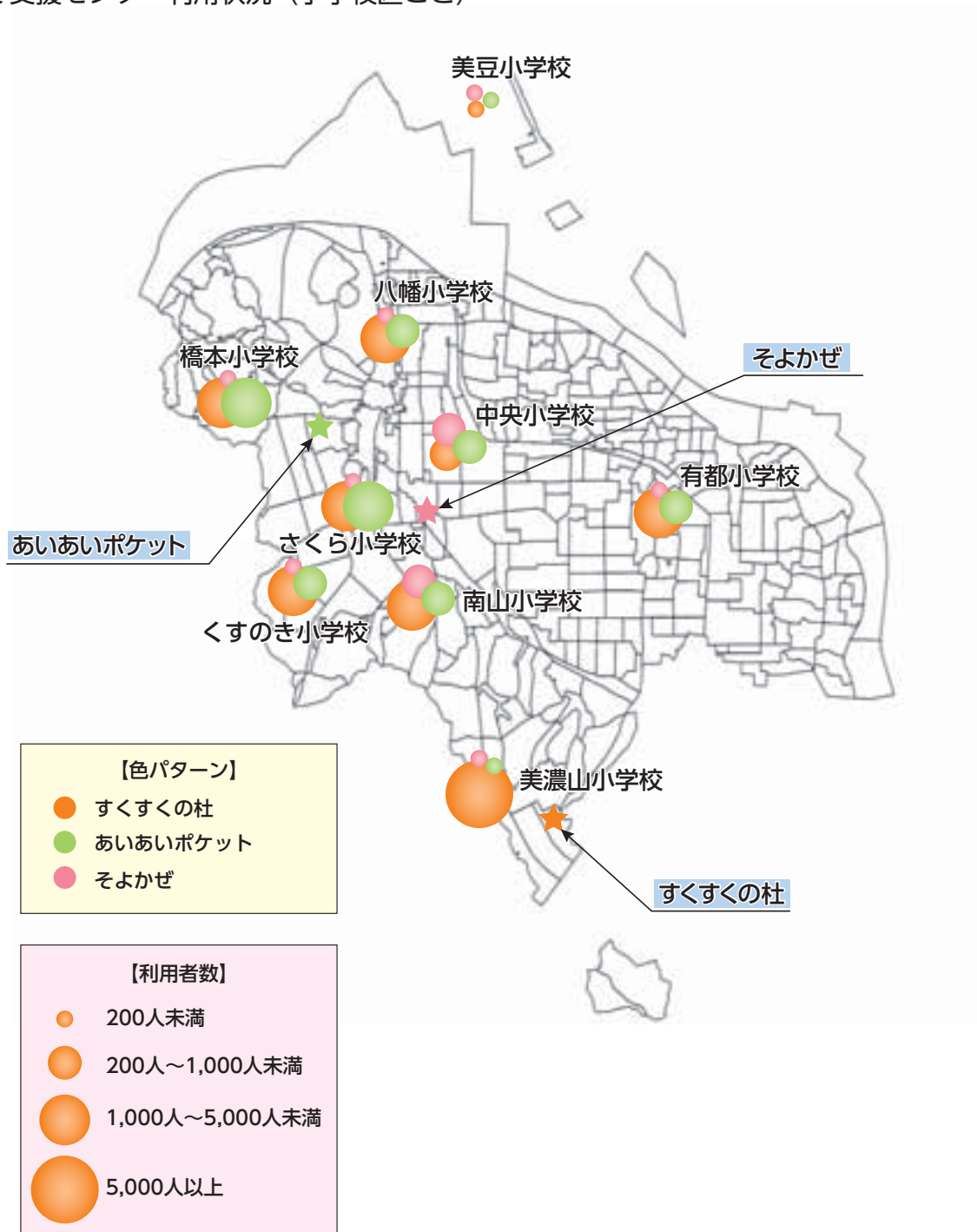
(関連情報・データ等)

年間出生数と新生児訪問率の推移

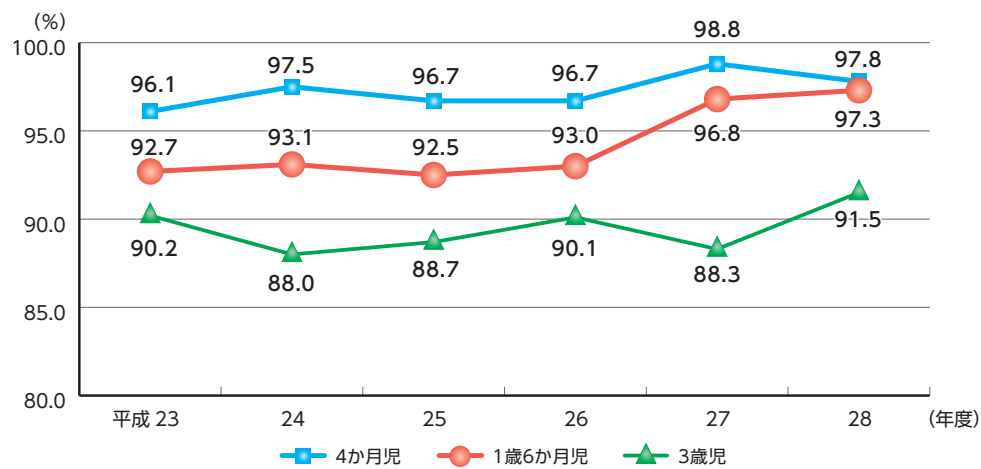


(資料) 八幡市

子育て支援センター利用状況（小学校区ごと）

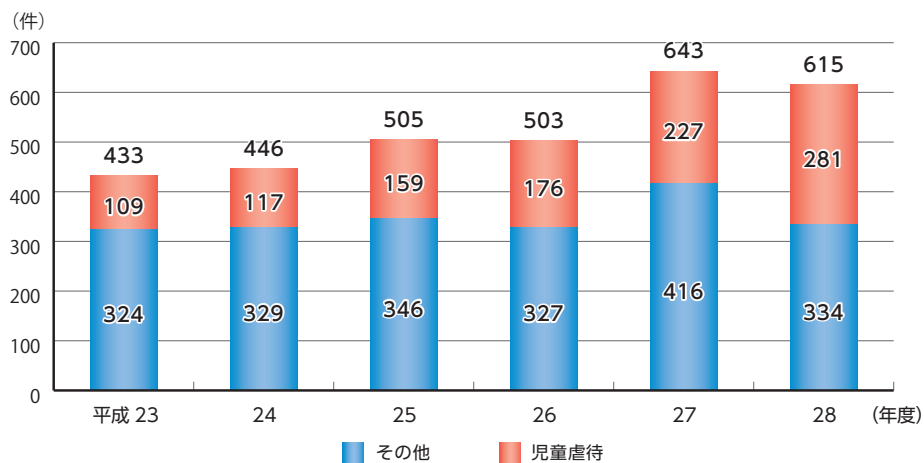


健康診査受診率



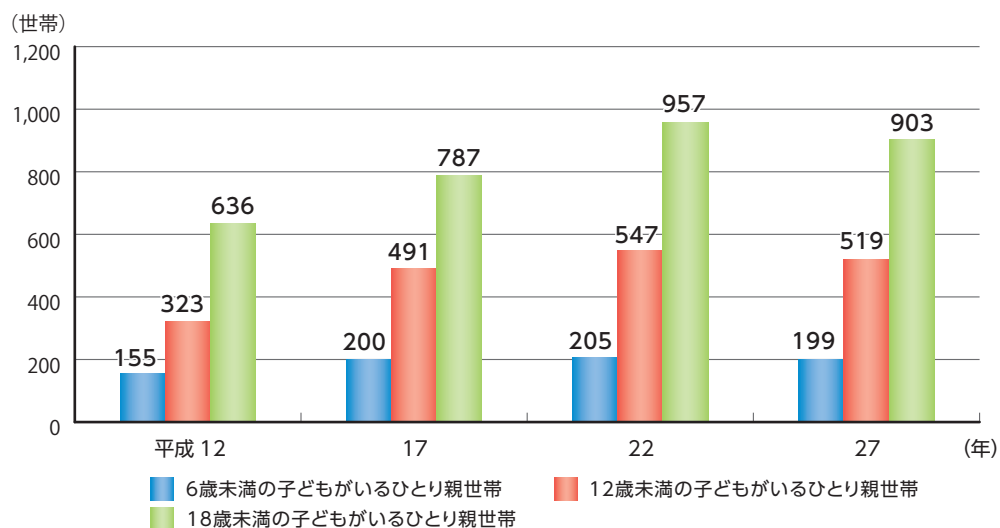
(資料) 八幡市

家庭児童相談室の相談状況



(資料) 八幡市

ひとり親世帯数 (各年10月1日現在)



(資料) 総務省「国勢調査」

主な取組と方向性

● 妊娠・出産・子育て環境の整備と充実

- ▶ 妊娠・出産から子育てまで、一貫したサポートが受けられ、安心して子育てができる環境の整備を進めます。
- ▶ 子育て支援センターやファミリーサポートセンター*の取組を充実させるとともに、子育てに関する学習や交流の機会を充実させるなど、子どもを健やかに育てることができる環境を整えます。
- ▶ より多くの人に八幡市の子育て環境を知ってもらえるよう、子育て支援施策の周知を図ります。

● 子ども・妊産婦の保健体制の充実

- ▶ こんにちは赤ちゃん訪問事業*の訪問率や乳幼児健診の受診率向上をはじめ、乳幼児の健全な育成や妊産婦の健康保持・増進など、母子保健の充実を図ります。

● 相談・支援体制の充実

- ▶ 多機関多職種のネットワークによる支援と相談援助技術の向上に取り組めます。
- ▶ 児童発達支援センター*を中心とした地域支援体制の構築や医療的ケアが必要な障がい児支援のための関係機関の協議の場の設置など、連携支援体制の構築に努めます。
- ▶ 福祉に携わる専門職間が連携し行う座談会「『わたしたちの談話』プロジェクト（むすびの談話）」を社会福祉協議会と協働で実施し、相談・支援体制の充実につなげます。
- ▶ 貧困や家庭問題などを抱える家族を支援するため、絆ネットワーク構築支援事業*を進めます。

● ひとり親家庭支援の充実

- ▶ ひとり親家庭の自立と生活の安定のため、必要な相談及び生活・経済的支援を実施します。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
ファミリーサポートセンター*登録会員数	345人	415人	460人
3歳児健康診査受診率	91.5%	92.0%	93.0%
こんにちは赤ちゃん訪問事業*の訪問率	91.0%	92.0%	95.0%

2 就学前教育・保育の充実

現状と課題

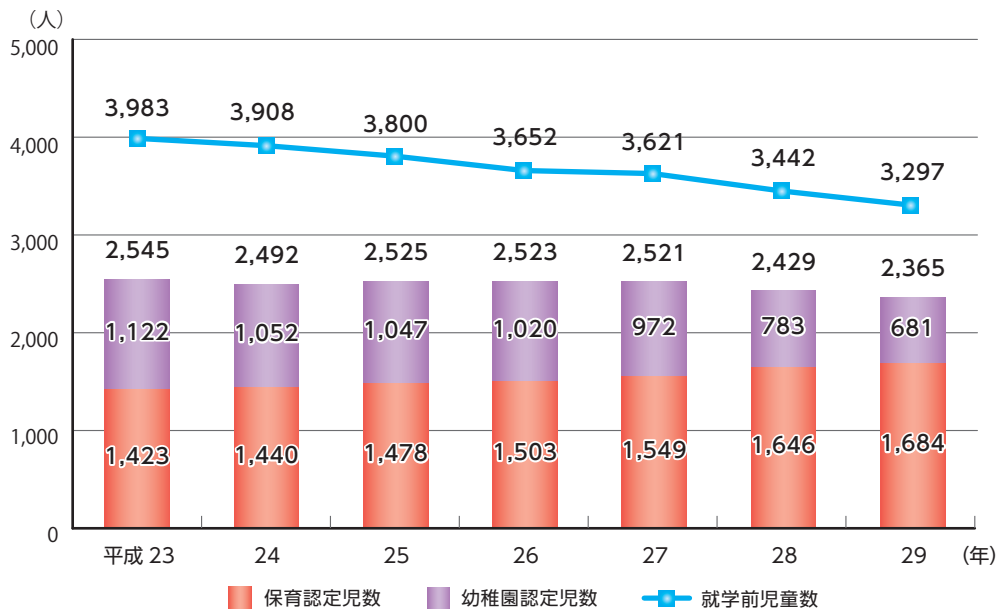
少子化に伴い就学前児童数が減少している中、女性の就労率向上等を背景に、保育園や認定こども園の園児数は増加傾向にある一方で、幼稚園の園児数は減少しています。

これまで市では、公立の就学前施設の効率的な運用や、私立の就学前施設への積極的な支援などによって、待機児童ゼロを継続的に実現するとともに、多様な教育・保育サービスを提供し、保育ニーズへの対応に努めてきました。また、就学前教育・保育の質の向上のため、2013（平成25）年度に府内初となる公立の認定こども園を開設後、私立幼稚園も2園が認定こども園に移行し、就学前教育・保育の一体的提供を推進してきました。

2017（平成29）年度には、子ども・子育て会議*から「公立就学前施設の再編」及び「就学前教育・保育の充実」についての答申をいただいております。今後は、答申内容を踏まえた施策の展開を図ります。

（関連情報・データ等）

就学前児童の状況



*保育認定児数は、保育園と認定こども園における保育認定の園児数。

*幼稚園認定児数は、幼稚園と認定こども園における教育標準時間認定の園児数。

*就学前児童数及び保育認定児数は4月1日、幼稚園認定児数は5月1日現在の値。

（資料）八幡市

主な取組と方向性

○ 就学前教育・保育の充実

- ▶ 認定こども園化を推進するとともに、保育内容・教育内容の充実を図ります。
- ▶ 小学校への円滑な移行を図るため、幼小連携の強化を図ります。

○ 公立就学前施設の再編

- ▶ 子ども・子育て会議*の答申に基づき、公立の就学前施設を小学校区単位で認定こども園に再編します。
- ▶ 公立就学前施設の再編により、適切な園児数と人員を確保し、効果的かつ効率的な運営を図ります。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
保育園の待機児童数	0人 (H29.4.1)	0人	0人
認定こども園の数	3園	6園	10園



あいあいサロン（指月児童センター内 あいあいポケット）

Ⅱ 第2節 子どもの生きる力の育成

めざす姿

次代を担う子どもたちの「生きる力」が備わっています。

施策体系

子どもの 生きる力の育成	①学校教育
	②児童・青少年の健全育成

施策の背景

次の時代の地域・社会を担う子どもたちが健全に育つには、学力はもとより、対話などを通じて育む広い意味での「賢さ」を身につけ、生きる力を備えた人間に育てる教育が重要であり、それを可能にするような学校における教育内容や学校施設の充実を進めていく必要があります。

また、共働き世帯の増加により、放課後の児童の安全・健全な居場所づくりも課題になっているほか、障がいなど配慮が必要な子どもの数が増えており、支援体制の充実が必要になっています。



中学校給食

1 学校教育

現状と課題

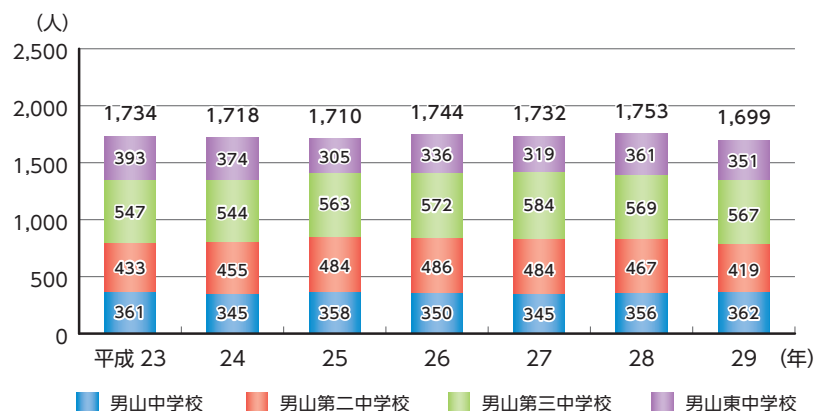
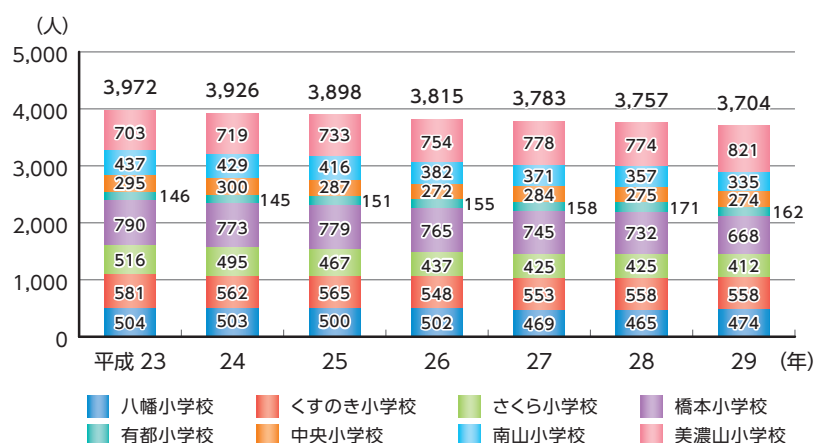
市では、少子化に伴い児童生徒数が減少する中、2010（平成22）年度に学校再編を完了し、「1中学校2小学校」の体制を構築しました。また、学校施設はすべて耐震化・防災機能強化整備と空調設備整備を完了し、ハード面での教育環境の充実を進めてきました。

ソフト面では、学力の向上に向け、学力府内1番を掲げて取り組んでいますが、京都府の平均を下回っていることが多い状況です。この状況の改善に向け、授業を円滑に進めるための学習指導員等の配置を十分に進めていく必要があります。加えて、体験学習や各校の連携による小中一貫教育の推進等にも取り組んでおり、引き続き一貫性・連続性に配慮した教育を進めていく必要があります。

また、市内の不登校児童生徒の出現率が増加傾向にあり、八幡市教育支援センターの「教育相談室」においても、登校しぶりや不登校での相談が多い傾向にあります。各学校や関係機関と連携し、個々の事情に応じて丁寧に対応を進めていくことが今後必要です。

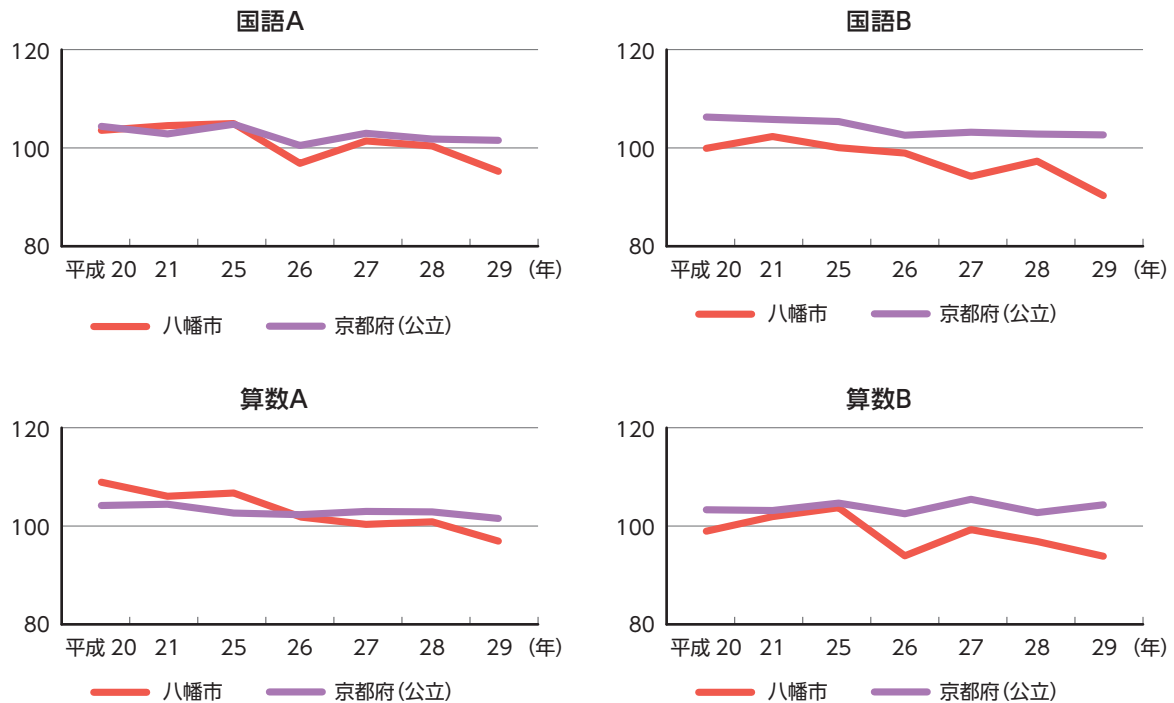
（関連情報・データ等）

小中学校の児童・生徒の数の推移（各年5月1日現在）

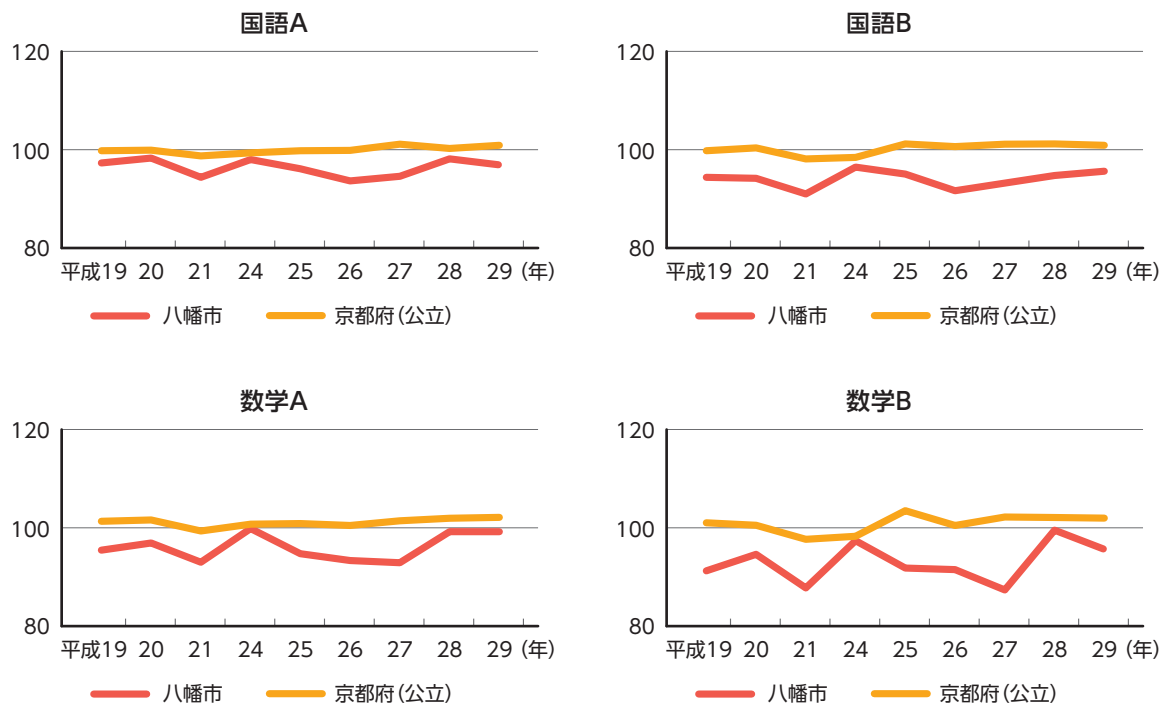


（資料）八幡市

全国学力・学習状況調査結果（全国平均を100とした場合の京都府・八幡市の状況）
（小学校6年生）

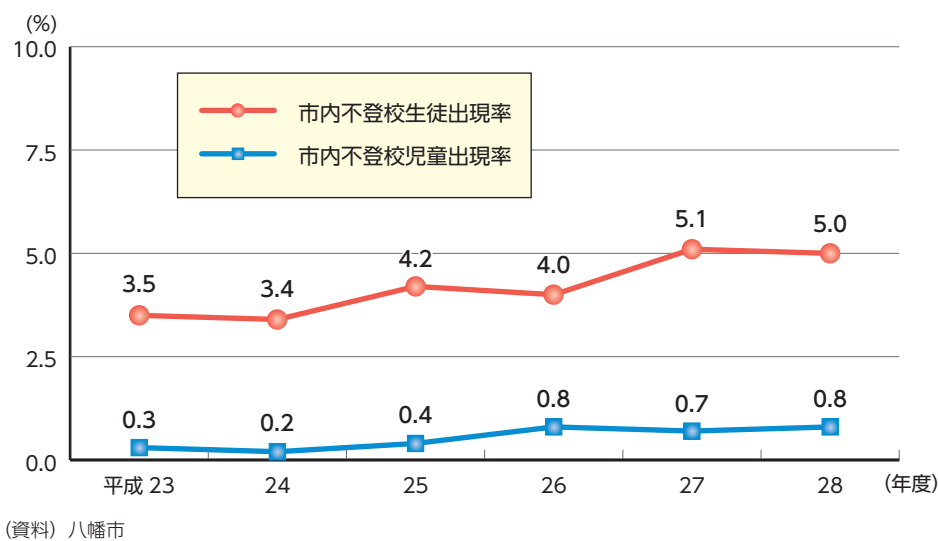


（中学校3年生）

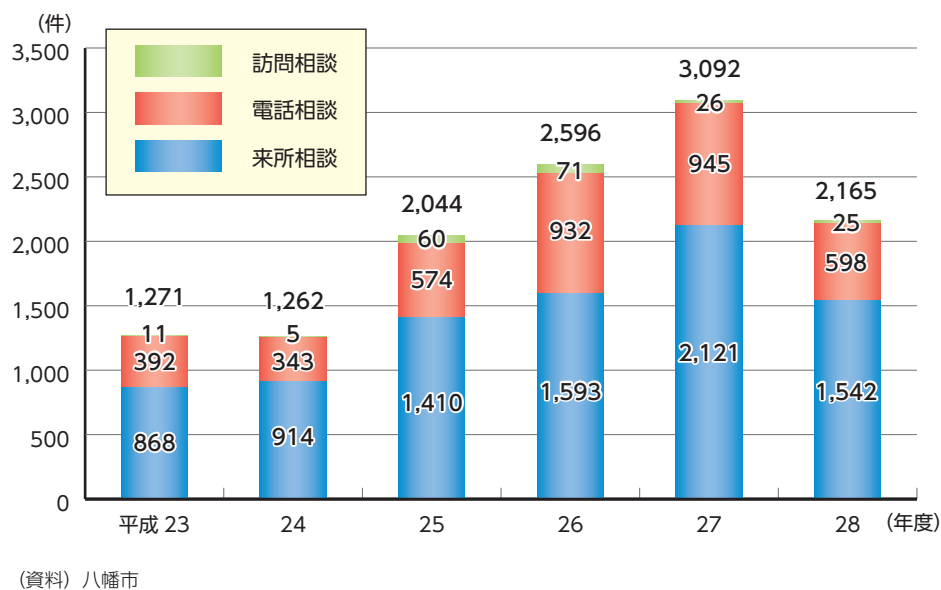


（資料）八幡市

市内不登校児童生徒出現率



教育支援センター教育相談室の相談状況



主な取組と方向性

● 学校教育の充実

- ▶ 子どもの生きる力を育てるため、魅力ある学校づくりを進める中で、学力向上や豊かな人間性の育成に向けた様々な取組を展開するとともに、社会のニーズに応じた教育を推進します。
- ▶ 教育課題に応じた教職員研修の充実など、各学校における教員の指導強化を図ります。
- ▶ 心身ともに健やかに成長できる教育環境を構築します。

● 学校教育環境の整備

- ▶ 適切な教育環境の整備に向け、引き続き老朽化への対応等を図ります。

● 配慮が必要な子どもへの支援体制の整備

- ▶ 支援を必要とする子どもへの学習支援の充実を図ります。
- ▶ 不登校など、学校に関わる子どもや保護者の様々な悩みに適切に対応し、支援できる体制を整備します。
- ▶ 「八幡市いじめ防止基本方針*」に基づき、いじめの早期発見・対応に努めます。
- ▶ 障がいのある児童生徒への支援体制を、関係機関との連携を図りながら充実させます。
- ▶ 障がいのある子どもに対する療育支援の充実を図るとともに、インクルーシブ教育*との連携を図ります。

施策の進捗をはかる指標

指標名		現状	目標値	
			2022年	2027年
全国学力・学習状況調査結果 ^(※) (小学校6年生)	国語A	94.9	100	105
	国語B	90.4	100	105
	算数A	96.7	100	105
	算数B	93.7	100	105
全国学力・学習状況調査結果 ^(※) (中学校3年生)	国語A	96.9	100	105
	国語B	95.6	100	105
	数学A	99.1	100	105
	数学B	95.6	100	105
市内不登校児童生徒出現率	小学生	0.8%	0.6%	0.4%
	中学生	5.0%	3.9%	2.8%

※調査結果の全国平均を100とした場合の八幡市の状況。



スタディサポート教室（くすのき小学校内会場）

2 児童・青少年の健全育成

現状と課題

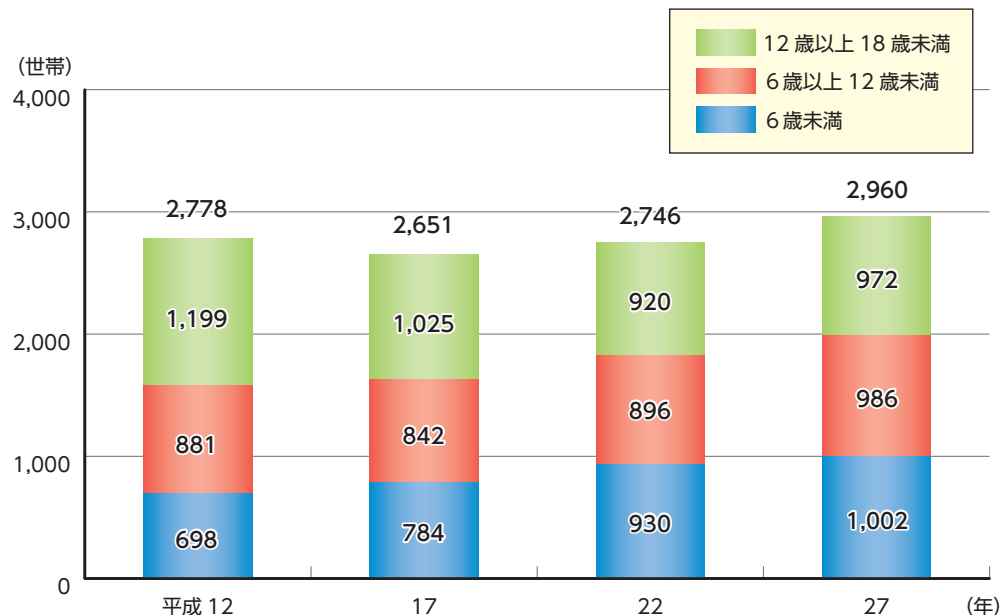
少子化に伴い小学校の児童数は減少傾向にありますが、小学生の子どもがいる共働き世帯の増加などから、放課後児童健全育成事業*の需要は増加傾向にあります。

市では、小学校5年生、6年生を対象に、学習を支援し、自学自習力と学習意欲の向上を図るため、「やわた放課後学習クラブ」を設置しています。今後、児童が放課後に安心して過ごせる場のニーズに対応するため、放課後児童健全育成施設との連携を進めながら、取組を充実させていく必要があります。

青少年の健全育成に向けては、青少年育成補導委員会*やPTA、学校支援地域本部*等による活動が行われています。地域で児童・青少年の健全育成を支える体制の充実に向け、各機関の連携強化と担い手の育成が求められています。

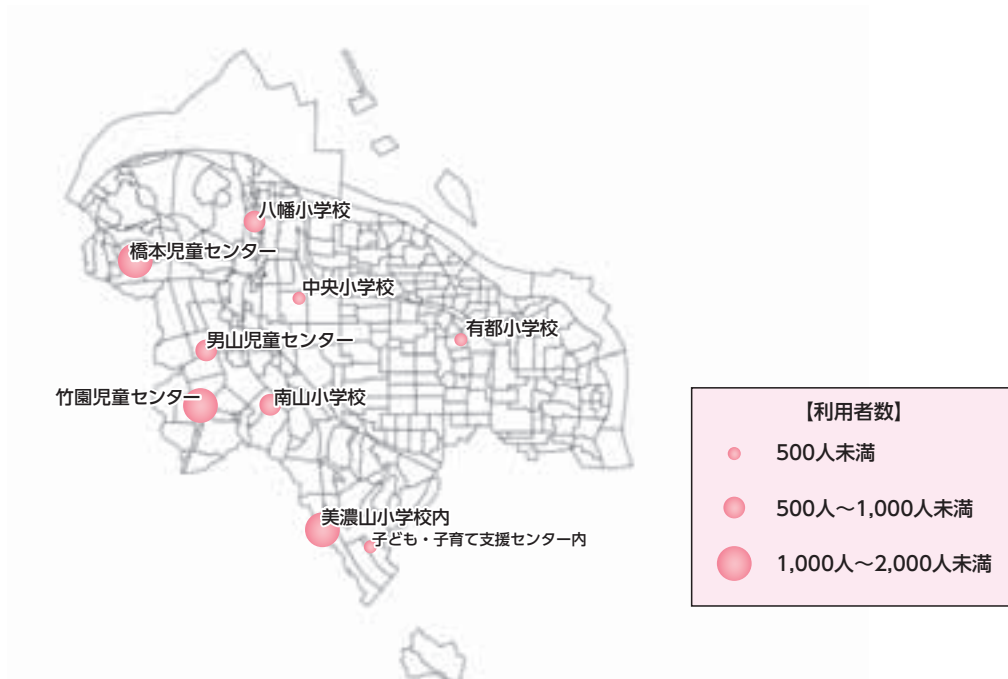
(関連情報・データ等)

子どもの年齢別にみた共働き世帯数（各年10月1日現在）



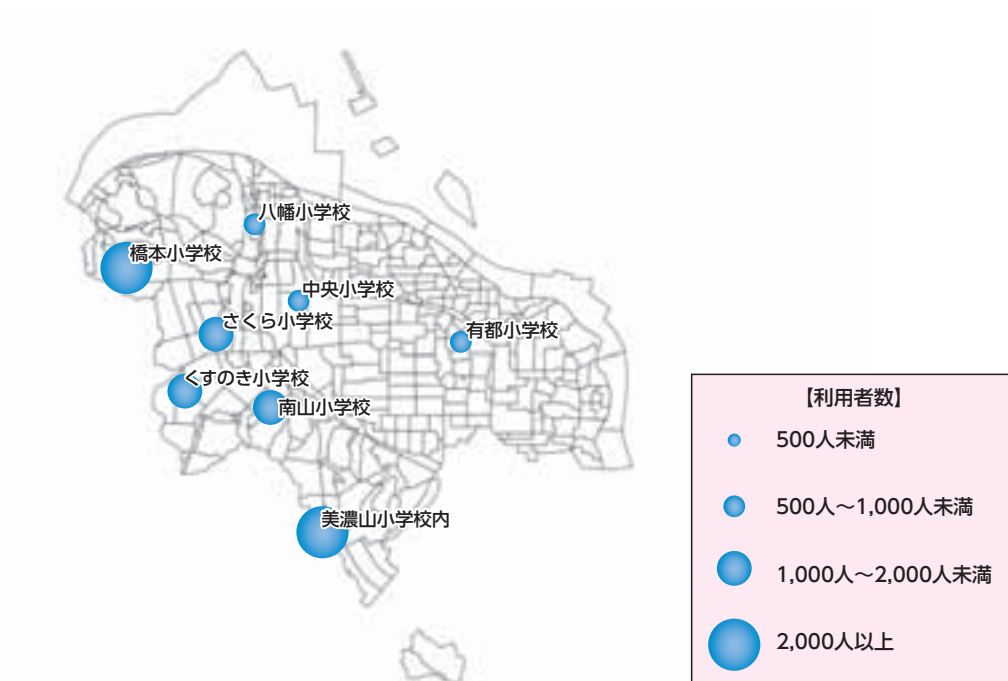
※最年少の子どもの年齢別共働き世帯数。
(資料) 総務省「国勢調査」

放課後児童健全育成事業*利用人数



(資料) 八幡市

放課後学習クラブ利用人数



(資料) 八幡市

主な取組と方向性

○ 放課後における児童の健全育成

- ▶ 児童が安心して放課後を過ごすことができるよう、放課後児童健全育成施設と放課後学習クラブとの連携による「放課後子ども総合プラン*」を推進します。

○ 青少年の健全育成

- ▶ 青少年育成補導委員会*やPTA、学校支援地域本部*等の活動支援など、地域を挙げて青少年の健全な育成を支える取組を進めます。
- ▶ 青少年育成補導委員会*やPTA、学校支援地域本部*等との連携を通じ、青少年健全育成を担う人材の育成を図ります。

施策の進捗をはかる指標

指標名	現状	目標値	
		2022年	2027年
放課後子ども総合プラン*実施箇所数	0箇所	4箇所	8箇所



青少年育成補導委員会*キャンプ



絆フェスタ（男山中学校区学校支援地域本部*）



学習支援活動
（男山第二中学校区学校支援地域本部*）



花壇整備（男山第三中学校区学校支援地域本部*）



ビオトープ池への放流
（男山東中学校区学校支援地域本部*）